

「iSWEEP ホイールスペーサー」取扱説明書 [要保存]

この度は、「iSWEEP ホイールスペーサー」(以下、スペーサー)をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

本説明書は、誤った取り付けや使用方法による故障や事故等を未然に防止し、安全にご使用頂く為に必要な内容を記載しておりますので、本製品の装着、ご使用前に下記説明事項を必ずよくお読み頂き内容をよく理解してから取り付け作業を行って下さい。

又、この説明書は本製品を別の車両に再使用する場合やホイールを変更した場合又は、他の方に譲渡する場合には同様の注意事項を確認する必要がありますので大切に保管して下さい。

【iSWEEP ホイールスペーサーの装着対象車種】

本製品は、フォルクスワーゲン、アウディ車専用開発設計されておりますので、他の車種への装着または、加工は絶対におやめ下さい。又、使用するホイールが純正以外の場合、センターハブ穴径がフォルクスワーゲン、アウディ車の規格である 57mm になっていない場合があります。その場合、使用するホイール専用のハブスペーサー(57mm 変換アダプター)が必要となりますので、ご不明の場合は、ホイールメーカー又は、購入販売店にてご確認下さい。

【スペーサーを装着するために必要な専用延長ボルト】

スペーサーを装着するためには、現在使用しているホイールのボルト座面形状と同じボルトを使用し、装着するスペーサーの厚み分だけボルトを長くする必要がありますので、下の図1を参考にボルトを選定して下さい。



図1

【取り付け時の注意事項】

- ◇スペーサーを車両に取り付ける際は、必ずジャッキもしくは、リフトを使用し、車両の脱落防止や輪止め等を使用して安全を確保した上で車輪を外して作業を行って下さい。
- ◇スペーサーを取り付ける前に必ずスペーサーのサイズ、穴数、PCD が取り付け車両に適合しているかよく確認して下さい。車両に適合しない場合は絶対に取り付けはしないで下さい。
- ◇スペーサーを取り付ける車両側ハブ廻り、取り付け面とホイール裏側のハブ穴、取り付け面の状態を良く確認し、錆や汚れなどが付着していないか良く確認して下さい。錆や汚れの付着、塗装膜が厚い場合には、布や紙やすり等を使用して完全に除去して下さい。
- ◇スペーサーを車両側のハブとホイール側ハブ穴の取り付け面にそれぞれ仮組みを行いスペーサーを挿入した状態を確認して下さい。この際に、スムーズに入らなかったり、挿入後にガタがあったり、取り付け面との間に隙間がある場合は、装着できませんので使用を中止し発売元にご相談下さい。(スペーサーの挿入する方向は、中心のハブ挿入口が斜めに面取りされている面が車両側になります。)
- ◇スペーサーの仮組みの結果、車両側装着面とホイール装着面にスペーサーが完全に密着し且つ、ガタのない状態が確認できたら、スペーサーのボルト穴と車両側ボルト穴の位置を合わせて下さい。その状態でホイールを取り付けます。ホイールのボルト穴の位置を合わせて専用の延長ボルトを使用し、必ず手でレンチとソケット等を使用しボルトを対角線上に均等に締め付けてホイールを固定して下さい。この際に、絶対にインパクトなどを使用しないで下さい。必要以上のトルクをかけることで破損する場合があります。
- ◇使用した延長ボルトの長さが不適切な場合、ボルト先端部がホイールボルトを締め付けた状態で ABS センサープレートに干渉する可能性があります。必ず干渉していないか確かめて下さい。リアのドラムブレーキ内部のブレーキ部品への干渉の確認は、タイヤを浮かせた状態で手で軽く回転させて干渉などがいないか確認して下さい。万一、これらに干渉するような場合は、適切な長さの延長ボルトに交換する必要があります。
- ◇ホイールボルト取り付け後に必ずトルクレンチを使用して規定トルクで確実に締め付けて下さい。
《推奨規定トルク》
M12 ボルト=120Nm
M14 ボルト=140Nm

【取り付け後の確認事項と注意事項】

- ◇スペーサーを車両に取り付けた後は、車両のフェンダーとタイヤの干渉がないか確認して下さい。又、左右いっばいにハンドルをきった状態でサスペンションやブレーキ部品との干渉がないかを良く確認して下さい。
- ◇スペーサーを装着した後に、タイヤ・ホイールが車体よりはみ出すことは法令で禁止されていますので、そのような状態で公道を走行することは絶対に避けて下さい。
- ◇スペーサーを装着した状態で、サーキットを走行したりするスポーツ走行や競技での使用は絶対に避けて下さい。場合によっては取り付けボルトが緩み外れる場合があります。
- ◇スペーサー装着後は、定期的なトルクレンチを使用してホイールボルトの緩みがないか確認して、規定トルクで増締めを行って下さい。
- ◇本製品は、アルミ合金で出来ております。装着後は常に風雨や泥、ブレーキダスト等にさらされる為、アルミ合金であっても錆や腐食等の問題が生じる場合があります。又、降雪地域においては、道路凍結防止剤、海岸地域においては、塩水や潮風により腐食が生じやすく耐久性が著しく落ちますので、必ず洗浄等をこまめに行い常にきれいな状態でご使用下さい。